

産地戦略

実施期間 令和7～11年度

実施主体 JAあさか野いちご組合
都道府県 埼玉県
対象地域 朝霞市・志木市・和光市・新座市
対象品目 イチゴ（施設）



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

● 化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

新座・和光市管内は、都市近郊という地理的利点を生かし、いちごの摘み取り体験が盛んに行われている。消費者と触れ合う機会が多く、消費者の食の安全へのニーズの高まりを受け、安全安心な低農薬での栽培を求められることが多くなっている。また、異常気象の影響により害虫の発生が予測しづらく、定期的な農薬散布を実施し防除を行っているが、作業負担の増加と、それに伴う人件費の増加が課題となっている。

そこで、いちごの重要病害であるうどんこ病とダニ類の防除に紫外光照射（UV-B）技術を導入した栽培方法を確立することにより、化学農薬の使用頻度を減らし、環境への負荷や使用者への農薬暴露の影響を少なくするとともに、作業時間の削減を目指す。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業	栽培・収穫		育苗			定植		栽培・収穫					
化学農薬散布								●	●		●		●：対象病害虫（うどん粉病及びダニ類）の登録がある殺虫剤及び殺菌剤の使用時期

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業	栽培・収穫		育苗			定植		栽培・収穫					
化学農薬散布								●			●		●：対象病害虫（うどん粉病及びダニ類）の登録がある殺虫剤及び殺菌剤の使用時期
UV-B照射													

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.21	▶ 1.21	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.22	▶ 0.94	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.22	▶ 0.94	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.22	▶ 0.94	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境 省力	化学農薬のみの防除	▶ 紫外光照射（ＵＶ－Ｂ）による病害虫防	化学農薬の使用回数の削減 農薬暴露の影響軽減 作業時間の削減
		▶	

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境 省力	化学農薬の使用回数（回）	6	▶ 4	殺虫剤 3 → 2 回、殺菌剤 3 → 2 回に削減
			▶	
			▶	
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）
* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

関係機関が一体となり、情報提供及び技術指導を行うことで、技術の周知及び推進を図る。

関係者の役割

関係者名	JAあさか野いちご部会	埼玉県さいたま農林振興センター	JAあさか野	
役割	技術導入、検討	情報提供・技術指導	情報提供・技術指導	